

女性研究者を活かす

日本女子大学「女性研究者マルチキャリアパス支援プロジェクト」の取り組み③

社会に活躍の場を広げる

日本女子大学理学部教授・プロジェクトリーダー 小舘 香椎子

日本の少子高齢化により労働人口の減少が進む中、潜在労働力の活用のために、個々の能力や個性を発揮し、多様な分野で活躍することが求められている。政策会議の中にも、『再チャレンジ推進会議』(多様な機会のある社会)推進会議が発足し、国の施策として女性の支援が始まっている。特に、潜在労働力としての女性の活用は大変期待されており、中でも、自然科学系女性研究者の育成は第三期科学技術基本計画にも掲げられている。

ポートフォリオに蓄積し、これを有効活用できるシステムの構築や研究的ポスト拡大のための努力、多様な就職先への支援活動、それを支える相談窓口の設置などを行っている。これらの活動を通して、理系女性研究者・技術者の数を増やし、社会に向けて活躍の場の拡大を目指している。

本プロジェクトにおける「マルチキャリアパス支援」の取り組みのうち、今回は、三本柱の一つである「ヒューマンリソース部門」の活動について述べる。

「eポートフォリオシステムによるキャリア構築」

ポートフォリオとは、学びのプロセスで生み出す学習成果物(レポート・テスト・調査した文献など)や学習履歴などを蓄積した集積物のことを指し、また、それを活用した評価方法・評価結果を含む。これを活用することにより、点在していた個人の学習成果物・履歴などを一元化でき、理解の程度・思考過程が可視化でき、テストなどでは測れないプロセス評価が行える。よって、多様なキャリアパスを視覚化することができる。ITを活用して実現したポートフォリオを「eポートフォリオ」と言う。

できるような入力項目に関する検討に取り組んだ。まずは、就職の受け皿となる企業(大手電気メーカー)の採用に携わる研究者と人事担当者から、学部卒・修士修了者と博士号取得者を採用するにあたり、注目する項目についてヒアリングを行った。また、名古屋大学キャリアパス支援室、人材開発会社へもヒアリングを行い、研究者用ポートフォリオシステムの入力項目を絞り込んだ。これらのヒアリング結果より得られたジョブマッチングに必要な項目をWeb上で入力できるeポートフォリオシステムを構築した。

ヒューマンリソース部門

ヒューマンリソース支援とは、多様なキャリアパスを受け入れ、多様なキャリアパスで送り出すための支援である。これを実現させるために、キャリアアップや就職時に必要となる研究者の経歴やスキル、業績などをeポ

これを、研究者のジョブマッチングに活用

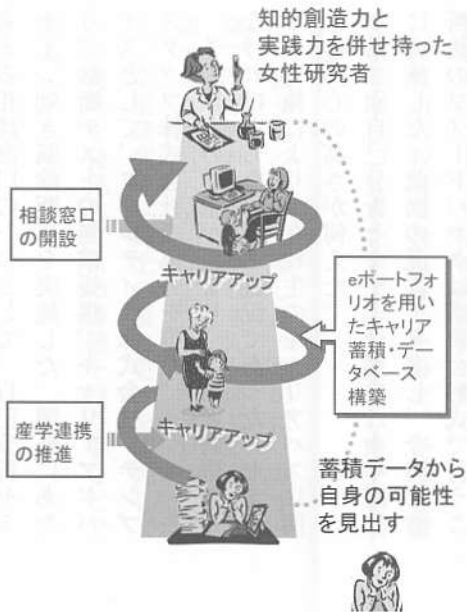
平成十八年度に実施した、本理学部・家政理学科の卒業生対象のアンケート調査結果より、大学の機能として、卒業生のコミュニティの発足や再就職・転職の支援が求められていることが再認識された。そこで、本システムを平成十九年十月に開催した「理学部・家政理学科ホームカミングデー」においてシステムの説明会を行い、システムの登録の受付を開始した。また、Web上のコミュニティを活性化させるためにSNS(Social Network Service)、就職情報検索の機能も拡張

した。

本学で取り組んでいるeポートフォリオシステムが、第四回日本e-Learning大賞において「文部科学大臣賞」を受賞した。これは、生涯学習指導のためのインターネット教育基盤として極めて独創的であり、教育的、技術的に極めて高いものであることが評価され、受賞に繋がった。

【相談窓口】

相談窓口として、様々な職種・業種で活躍する女性研究者・技術者を話題提供者に招き、サイエンスカフェ、効き脳診断による自己分析セミナーを多数開催している。現状・将来について悩みや不安を抱えている女性研究者・大学院生らが集まり、忌憚のない意見を述べたり、話題提供者からアドバイスをもらったりしている。参加者からは、毎回好評を得ている。また、学生や女子高校生に対し多様なロールモデルの提示の機会としても機



能も果たしている。以下に、最近開催したサイエンスカフェの概要を紹介する。

(1) サイエンスカフェの開催

日時…平成十九年十二月十四日(金) 13:30～15:30

場所…日本女子大学 新泉山館 マルチキャリアパス支援プロジェクト推進室

話題…ヨーロッパの女性研究者の現状について

話題提供者: Dr. Heidi Ottevaere (Vrije Universiteit Brussel)

電子工学を専攻され、現在、光学デバイスに関する研究(作製から応用まで)に従事。三歳の男児の母で、研究を継続。

Heidi氏について早稲田大学の中島啓幾教授よりご紹介頂き、その後、遠山推進室長から本プロジェクトの活動内容についての紹介を行った。その後、Heidi氏より、ヨーロッパで働く女性の育児事情などについて、彼女の

の real life を紹介しながらお話しいただいた。また、ヨーロッパにおける理科教育の現状についても話が及んだ。短時間ではあったが、有意義なディスカッションの場となった。

日時…平成二十年三月六日(木) 18:00～21:00

場所…日本女子大学 新泉山館 マルチキャリアパス支援プロジェクト推進室

話題…ライフイベントを考慮したキャリアパスプランを考える

日時…平成二十年三月六日(木) 18:00～21:00

場所…日本女子大学 新泉山館 マルチキャリアパス支援プロジェクト推進室

話題…ライフイベントを考慮したキャリアパスプランを考える

日時…平成二十年三月六日(木) 18:00～21:00



終了後、さくらナースリーを見学

話題提供者…山口幸子氏(テンプスタッフ株式会社)

共催…日本光学会コンテンツポラリーオプティクス研究会

山口氏より、「ライフイベントと自分自身とを向き合う」という話題提供のワークショップを交えながら参加者各人が考え、意見を述べていった。二十代～六十代までの幅広い年齢層が集まり、各年代で生じるライフイベントに対して、いかにキャリアと向き合うか

・向き合ってきたかについてディスカッションをした。会が終わっても、部屋の各場所

でディスカッションは続き、皆が別れを惜しむほど、充実した会となった。

(2) 自己分析セミナーの実施

平成十九年六月に、在校生(学部一年生)

大学院生)を対象に、将来のキャリアパスを

考える相談窓口の一つとして、自己分析セミナー（効き脳診断）を実施した。開催にあたり、診断テストの無償提供、キャリアアドバイザーとして、フォルティナ株式会社、テンブスタツフ株式会社の協力を得た。

予想以上の学生が集まり、入場者制限をしなければならぬほど盛況であった。セミナーの実施により、在校生のキャリアパスに関する関心の高さが伺えた。

第二回自己分析セミナーは平成二十年四月に実施した。前回の混雑を考慮し、今回は診断後のフィードバックは講習会形式で行うこととした。結果のフィードバックとしてグループディスカッションも行ったため、友人の結果を参照することで、改めて自己診断を行う効果もあった。

【産学連携推進】

(1) 人材派遣会社との連携

本プロジェクトの活動に賛同し、テンブスタツフ株式会社がマルチキャリアパスの出口の支援に協力をしてくれることになった。現在、同社が所有する就職情報（派遣、紹介派遣、正社員）を定期的に提供し、eポートフォリオシステムに掲載中である。また、修士卒、ポスドクに関する就職先の確保にも、会社として取り組むこととなった。正式に本プロジェクトと業務提携を締結するための準備を進めている。

(2) 各種展示会への参加

本プロジェクトの取り組み、及び、本学で

行われている研究を学外へアピールするため、各種展示会にも参加している。平成十九年度は下記の展示会へ参加し、ポスター展示やパンフレットの配布等の広報活動を行った。

① 第六回産学官連携推進会議（平成十九年六月十六～十七日 於：国立京都国際会館）

② 「応用物理」創刊七十五周年記念事業 暮らしを支える科学と技術展

③ 世界を変える応用物理Ⅰ（平成十九年八月三～四日 於：科学技術館）

④ イノベーション・ジャパン二〇〇七―大学見本市

（平成十九年九月十二～十四日 於：東京国際フォーラム）

⑤ CEATEC JAPAN 二〇〇七（平成十九年十月二～六日 於：幕張メッセ）

【まとめ】

ヒューマンリソース部門は、本プロジェクトで支援を受けた女性研究者を社会に送り出すためのシステム構築、研究を継続するための精神的なサポートとなるコミュニティの形成、就職の機会を広げることも視野に入れた本学で行われている研究の学外アピールを中心に推進してきている。

出口の確保も、女性研究者支援の重要な目的であると考えており、引き続き、積極的な活動を進めていく予定である。

参考文献

(1) 文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支

援モデル育成」事業

(2) 日本女子大学「女性研究者マルチキャリアパス支援プロジェクト」平成19年度成果報告書

文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業

(3) 日本女子大学「女性研究者マルチキャリアパス支援プロジェクト」News Letter 第3号

(4) 日本女子大学 家政理学科・理学部卒業生にみる「マルチキャリアパスアンケート」結果報告書

(5) 日本女子大学紀要 理学部 第15号(2007)

(6) 日本女子大学紀要 理学部 第16号(2008)

(7) 電子情報通信学会誌 vol.90 No.6, 2007

新刊紹介

情報福祉の基礎研究会 編著

情報福祉の基礎知識

―障害者・高齢者が使いやすいインタフェース―

情報福祉の基礎知識

―障害者・高齢者が使いやすいインタフェース―

編著 情報福祉の基礎研究会



ジヤース教育新社

高齢者・障害者が使う情報機器のユーザインタフェースはJISやJISOでも規格化が重要な課題である。本書では文部科学省科学研究費特定領域研究「障害者・高齢者のコミュニケーション機能に関する基礎的研究」の研究成果を紹介し、心的負担を軽減するメンタルワークロードをキーワードにした、体系的ヒューマンインタフェース開発手法の試みを提案する。

A5判三〇頁定価二、〇〇〇円(二、〇〇〇円十税)
ISBN 978-4-19-21124-1-9 018